

平成二十二年三月

特35

茨木文庫目録

金沢市立玉川図書館

近世史料館

茨木文庫目錄

序

茨木家は、代々前田家に仕えた加賀藩士の家です。知行高は二、〇五〇石で、藩にあっては重臣の八家や人持組に次ぐ平士であり、その中でも上位に位置する家柄です。

本史料群は、藩主からの書状や知行宛行状、由緒・家計など、茨木家に直接関わるものだけではなく、茨木家家中の家臣構成が分かるものや由緒書なども含まれております。藩士をはじめ、家中の具体的な様子が窺い知れる大変貴重なものであります。

茨木家縁の方々が長年にわたり守ってきたこれらの貴重な史料を、今後も長く後世に保存し、伝えていくと共に、本目録が、多くの方々に利用・活用されることを念願するものであります。終わりに、貴重な史料を御寄贈いただいた伊東家の方々に対し、心からお礼を申し上げます。

平成二十二年三月

金沢市立玉川図書館

近世史料館

館長 森田 勝

凡例

- 1、本目録は旧加賀藩士茨木家旧蔵の史料目録であり、本館の三十五番目の特殊文庫となる。
- 2、目録記載は(分類)番号・(史料)標題・(作成)年月日・差出(作成者名)・宛名・形態・点数・墨付(冊子の場合)数の順に記した。標題については原題のままのもの、補足したもの、新たに付したものがあがるが、それらについて各々注記はしていない。史料の作成年月日については、記載のない場合でも推定できるものについては()を付して推定年を記した。冊子物の丁数は白紙部を除いた墨付部の丁数である。次行には内容と複点数史料の細目や内容項目・内容年代などを記した。
- 3、分類は茨木家と藩主(藩)に関わる史料は「一、藩主・知行」として纏め、茨木家の系譜・家計・冠婚葬祭に関わる史料は「二、茨木家」として纏め、茨木家の家臣に関する史料は「三、家中」として纏めた。「四、学芸」は茨木家に関わる学芸関係史料であるが、「二、茨木家」から分離し諸芸・宗教などと共に纏めた。四つの大分類の下には小分類を施した。分類番号は閲覧請求番号となる。
- 4、史料の配列は分類毎に編年とし、年代未詳の場合は干支のあるもの、月日のあるもの、年月日未詳のもの順に配し、年代未詳史料については大きく江戸期と明治期以降を区分し配列したが、明確に判別できないものもあり、特に江戸期・明治期などと表記していない。
- 5、本文庫は伊東志希子氏の寄贈になるものであるが、「三五・二二追」の史料については、志希子氏の叔父にあたる茨木敬四郎氏の寄贈になるもので、一括して茨木文庫とした。
- 6、標題や解題中に身分上の呼称が出てくるが、これは過去の身分制を肯定する、あるいは差別を容認するものではない。歴史上の事実として我々の歴史の中に存在したものであり、歴史・時代を認識する上で隠したりすべきではない、との判断から史料にあるがままに表記した。

三五 茨木文庫目録 目次

<p>一、藩主・知行…………… 1</p> <p>一、進物礼状…………… 1</p> <p>二、御書頂戴礼状…………… 2</p> <p>三、藩主等書状…………… 3</p> <p>四、御一行書…………… 3</p> <p>五、知行地…………… 7</p> <p>六、知行拝領礼状…………… 8</p> <p>七、知行判物留…………… 8</p> <p>八、勤仕…………… 9</p> <p>二、茨木家…………… 12</p> <p>一、由緒…………… 12</p> <p>二、遺言書…………… 13</p> <p>三、家計(扶持・貸借)…………… 14</p> <p>四、日記・小払帳…………… 16</p> <p>五、縁組願…………… 16</p> <p>六、婚儀…………… 17</p> <p> お鉄婚儀…………… 17</p> <p> 茨木源五左衛門再縁…………… 17</p> <p> お直婚儀…………… 18</p> <p> お信婚儀…………… 19</p>	<p>七、子女…………… 20</p> <p> お宅一件…………… 20</p> <p>八、交際…………… 22</p> <p>九、屋敷…………… 23</p> <p>三、家中…………… 23</p> <p>一、家政…………… 23</p> <p>二、知行…………… 23</p> <p>三、由緒一類附帳…………… 25</p> <p>四、宗門改…………… 26</p> <p>四、学芸…………… 26</p> <p>一、一般…………… 26</p> <p>二、俳諧…………… 27</p> <p>三、俳句短冊…………… 29</p> <p>四、和歌短冊…………… 31</p> <p>五、漢詩…………… 33</p> <p>六、書画・手跡…………… 33</p> <p>七、茶道…………… 34</p> <p>八、医薬…………… 34</p> <p>九、宗教…………… 35</p> <p> 解題…………… 36</p> <p> 1 茨木文庫概要…………… 36</p> <p> 2 茨木家系譜…………… 36</p> <p> 3 家計…………… 36</p> <p> 4 屋敷移動と茨木町…………… 36</p> <p> 5 家中…………… 36</p> <p> 6 俳諧…………… 36</p>
---	--

番号 標 題 年月日

差出(作成)↓宛名

形態

点数墨付

三五・一 進物礼状 藩主・知行

- 1 前田利常判物 (寛永十九年)閏九月二十四日 利常↓茨木小刑部 豎紙 1
銀杏・串海鼠到来に付
- 2 前田利常判物 年未詳正月三日(寛永九以降) 肥前利常↓茨木刑部 折紙 1
封紙上書「茨木刑部殿」鱈到来に付
- 3 前田利常判物 年未詳二月三日(右同) 肥前利常↓茨木小刑部 折紙 1
封紙上書「茨木小刑部殿」梨子・久年母・鴨到来に付
- 4 前田利常判物 年未詳三月二十六日(右同) 肥前利常↓茨木小刑部 折紙 1
封紙上書「茨木小刑部殿」枝柿・蛤到来に付
- 5 前田犬千代(光高)判物 年未詳十月十二日(寛永六年前) 犬千代↓茨木小刑部 折紙 1
封紙上書「茨木刑部殿」大和柿・干鯛到来に付
- 6 前田光高判物 年未詳十二月六日 光高↓ 豎紙 1
端裏宛書「中川判左衛門様人々御中 松筑前守光高」鷹之為餌柄鴨到来に付
- 7 前田利治判物 年未詳四月九日 利治↓ 豎紙 1
端裏宛書「茨木右衛門殿 松飛驒」鱈到来に付
- 8 前田綱利(綱紀)判物 年未詳正月二日 綱利↓伊藤内膳・岡嶋甚七・青山織部・野村治兵衛・菊池大学・浅加左京・山森吉兵衛・中村惣右衛門・岩田内蔵助・神尾数馬・茨木右衛門・青地四郎左衛門 折紙 1
- 9 前田綱利判物 為年始祝儀太刀馬代并与中礼錢到来に付 年未詳九月二十七日 加賀綱利↓茨木宗入軒 折紙 1

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
10	前田綱利判物 壺口切之茶并肴到来に付 封入	年未詳十月十九日	加賀綱利↓茨木宗入軒	折紙	1	
11	前田綱利判物 壺口切之茶并肴到来に付 封入	年未詳十月二十七日	加賀綱利↓茨木源五左衛門	折紙	1	
12	前田宗辰判物 官位被仰出に付祝詞肴到来に付	(元文二年)八月二十一日	宗辰↓茨木源五左衛門	折紙	1	
13	前田宗辰判物 官位被仰付に付祝詞肴到来に付	(元文二年)八月二十一日	宗辰↓茨木覚左衛門	折紙	1	
14	前田宗辰印物 家督転任に付祝儀太刀馬到来に付	(延享二年)十二月二十五日	印 _(印文「宗辰」) ↓茨木覚左衛門	折紙	1	
15	前田重瀬印物 家督叙任入国に付祝儀肴到来に付	(延享四年)五月十五日	印 _(印文「重瀬」) ↓茨木覚左衛門	折紙	1	
16	前田齊廣印物 家督転任入国に付祝儀肴到来に付	(享和二年)九月十三日	印 _(印文「齊廣」) ↓茨木源五左衛門	折紙	1	
17	年頭祝儀到来に付判物雛形	年未詳正月四日	宰相↓長將之佐	折紙	1	
三五・一二 御書頂戴礼状						
1	佐渡守(宗辰)様より被成下 御書に付覚	(元文二年)丁巳十二月朔日	茨木源五左衛門	切紙	1	
2	御書頂戴に付礼状	(元文二年)十二月朔日	茨木覚左衛門↓前田將監・青木新兵衛			

3	御書頂戴に付礼状	(元文二年)十二月朔日	茨木源五左衛門↓前同	折紙	1
4	御書頂戴に付礼状	(延享三年)三月十五日	茨木覚左衛門敬長↓横山大和守・西尾隼人	折紙	1
5	頂戴御書覚	延享三年三月十五日		切紙	1
	折封入			折紙	1
6	御太刀等進上目録	年月日未詳	茨木覚左衛門敬長↓	折紙	1
7	綿三把目録	年月日未詳		豎紙	1

三五・一三 藩主等書状

1	(前田利光(利常)書状)	年未詳十一月六日	利↓刑部	豎紙	1
2	(前田利光書状)	年月未詳二十一日	↓小刑部	折紙	1
3	(前田利光書状)	年月未詳二十二日	↓小刑部	豎紙	1
4	(前田利光書状)	年月日未詳	利光↓小刑部	切続紙	1
5	(前田利光書状)	年月日未詳	↓寿安・為斎・小刑部	豎紙	1
6	(前田利光書状)	年月日未詳	↓刑部	豎紙	1

三五・一四 御一行書

1	前田利勝(利長)軍功扶持宛行状写	天正十五年八月十七日	利勝↓吉田長藏	折紙	1
	豊前国岩石城攻無比類働に付褒賞四百俵扶持				
2	前田利長知行宛行状	慶長九年閏八月二十四日	利長↓斎藤勘兵衛	折紙	1
	加増知五拾石 封紙上書「利長様御判物御一行」				

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
3	前田利長知行宛行状写					
	・慶長九年閏八月二十四日 加増知五拾石 利長↓斉藤勘兵衛(前同)					
	・慶長十年十月二十日 百石 利長↓吉田左大夫					
	封紙上書「利長様御判物御一行控式通 右御用之由ニ付上之申候 二之御丸覺左衛門持参 九月二十六日」					
4	前田利長知行宛行状	慶長十年十月二十日	利長↓吉田左大夫	折紙	1	
	封紙上書「利長様御判物御一行」					
5	前田利光(利常)知行宛行状	慶長十八年九月十五日	利光↓吉田小刑部	折紙	1	
	封紙上書「吉田小刑部殿」 増知加五拾石、合百五拾石					
6	前田利光知行宛行状	元和三年正月二十七日	利光↓茨木小刑部	折紙	1	
	封紙上書「御一行 巳ノ三月九日ニ頂戴」 亡父領地式百石、加増式百五拾石、合四百五拾宛行					
7	前田利光知行宛行状	元和四年九月五日	利光↓茨木小刑部	折紙	1	
	封紙上書「茨木小刑部殿」 加増参百石、合七百五拾石宛行					
8	前田利光知行宛行状	元和七年十月八日	利光↓茨木小刑部	折紙	1	
	封紙上書「茨木小刑部殿」 加増知三百石、合千五十石宛行					
9	前田利光知行宛行状	元和九年二月二十一日	利光↓茨木小刑部	折紙	1	
	封紙上書「茨木小刑部殿」 加増知五百石、合千五百五十石宛行					
10	前田利光知行宛行状	寛永五年九月六日	花押↓いはら木隼人	豎紙	1	
	封紙上書「御一行 茨木小隼人」 五百石					
11	前田利光知行宛行状	寛永五年		豎紙	2	
	・寛永五年九月十日 加増五百石、合二千五百五十石宛行 花押↓いはら木小刑部					
	・(寛永五年)十月十五日 加増五百石、花押↓いはらき小刑部					

- 封紙上書「御自筆 御一行 式通」
- 12 前田利常知行宛行状 承応二年三月七日 犬千代・犬千代就在江戸一判如肥前利常↓茨木
- 封紙上書「茨木右衛門殿」 馬廻与頭料二百石、合二千七百五十石宛行 折紙
- 13 前田利常知行宛行状写（前写） 折紙
- 封紙上書「中納言様御一行」
- 14 前田綱利（綱紀）知行宛行状 寛文七年二月六日 加賀綱利↓茨木源五左衛門
- 封紙上書「茨木源五左衛門」 隠居料五百五十石宛行 折紙
- 15 前田綱利知行宛行状 寛文七年二月六日 綱利↓茨木権丞 折紙
- 封紙上書「茨木権丞殿」 父源五左衛門知行之内五百石宛行
- 16 前田綱利知行宛行状 寛文七年二月六日 加賀綱利↓茨木伝右衛門 折紙
- 封紙上書「茨木伝左衛門殿」 父源五左衛門知行之内千五百石宛行
- 17 前田綱利知行宛行状 寛文十一年九月二十七日 加賀綱利↓茨木伝右衛門 折紙
- 封紙上書「茨木伝右衛門殿」 父宗入（源五左衛門）隠居知五百五十石加、合二千五百石宛行
- 18 前田吉治（吉徳）知行宛行状 享保九年八月朔日 花押↓茨木源五左衛門 豎紙
- 元禄十年七月四日 茨木左大夫宛 亡父伝右衛門遺領二千五十石宛行状漏洩に付加奥書 折封入
- 19 前田吉治知行宛行状 享保九年八月朔日 花押↓茨木覚左衛門 豎紙
- 宝永元年十一月十三日 茨木貞右衛門宛 亡父権丞遺領五百石宛行状漏洩に付加奥書 折封入
- 20 前田吉治知行宛行状 享保九年八月朔日 印↓茨木源五左衛門 豎紙
- 宝永二年五月二十五日 茨木左大夫宛 先筒頭料百五十石宛行状漏洩に付加奥書 折封入
- 21 前田吉治知行宛行状 享保九年八月朔日 印↓茨木覚左衛門 豎紙
- 正徳二年七月十一日 茨木貞左衛門宛 小将横目役料百石宛行状漏洩に付加奥書 折封入
- 22 前田吉治知行宛行状 享保九年八月朔日 印↓茨木覚左衛門 豎紙
- 印文「吉治」

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数 墨付
23	前田吉治知行宛行状	享保三年二月二十八日	茨木覚左衛門宛 物頭並役料百五十石宛行状漏洩に付加奥書 折封入	豎紙	1
24	前田吉治知行宛行状	享保三年二月二十八日	茨木覚左衛門宛 加増百石、合六百石宛行状漏洩に付加奥書 折封入	豎紙	1
25	前田吉治知行宛行状	享保五年九月二十一日	茨木左大夫宛 持筒頭役料百五十石宛行状漏洩に付加奥書 折封入	豎紙	1
26	前田吉治知行宛行状	天和二年九月二十八日	茨木伝右衛門宛 先弓頭役料百五十石宛行返納に付加奥書 折封入	豎紙	1
27	前田吉治知行宛行状	享保十五年八月四日	茨木源五左衛門	豎紙	1
28	前田吉治知行宛行状	享保十六年四月十五日	茨木覚左衛門	豎紙	1
29	前田吉治知行宛行状	元文二年十月二十四日	茨木覚左衛門	豎紙	1
30	前田吉治知行宛行状	元文五年六月二十九日	茨木覚左衛門	豎紙	1
31	前田重熈知行宛行状	寛延二年七月十九日	茨木左大夫	豎紙	1
32	前田重基(重教)知行宛行状	宝曆十二年十二月二十二日	茨木鉄次郎	豎紙	1

33	(前田重教)知行宛行状写	宝曆十二年十二月二十二日	↓茨木鉄次郎	一紙	1
34	前田治脩知行宛行状	明和八年九月十一日	印↓茨木鉄次郎 (印文「治脩」)	豎紙	1
	亡父左大夫遺領二千五十石宛行	折封入			
35	前田治脩知行宛行状	享和元年二月二十八日	印↓茨木源五左衛門 (右同)	豎紙	1
	先筒頭役料百五十石宛行	折封入			
36	前田齊廣知行宛行状	文化九年正月十六日	印↓茨木源五左衛門 (印文「齊廣」)	豎紙	1
	歩頭役料百五十石宛行	折封入			
37	前田齊廣知行宛行状	文政五年七月四日	印↓茨木主殿 (右同)	豎紙	1
	亡父源五左衛門遺領二千五十石宛行	折封入			
38	前田齊泰知行宛行状	天保十一年五月二十三日	印↓茨木主殿 (印文「齊泰」)	豎紙	1
	先弓頭役料百五十石宛行	折封入			
39	前田齊泰知行宛行状	弘化三年正月十一日	印↓茨木主殿 (右同)	豎紙	1
	歩頭役料百五十石宛行	折封入			
40	前田齊泰知行宛行状	嘉永三年五月七日	印↓茨木主殿 (右同)	豎紙	1
	町奉行役料二百石宛行	折封入			
41	前田齊泰知行宛行状	嘉永六年二月十八日	印↓茨木主殿 (右同)	豎紙	1
	馬廻頭役料二百石宛行	折封入			
42	前田齊泰知行宛行状	安政二年十二月十一日	印↓茨木内匠 (右同)	豎紙	1
	亡父主殿遺領二千五十石宛行	折封入			
三五・一五 知行地					
1	前田利家石川河北領知方村付	慶長四年二月	利家↓斎藤勘平・村瀬市右衛門・佐久間拾 (印文「喜樂」)		

番号 標 題 年月日 差出(作成)↓宛名 形態 点数 墨付

2 石川中新保村・河北鳥屋尾村 合千百九十六俵、端裏付箋「斉藤勘平くみ」、折封入 兵衛・氏家忠兵衛・渡辺彦左衛門・武部源三郎・松江左七 続紙 1 1
知行地年季引免に付替地渡状 宝永二年六月 御算用場↓茨木左大夫 一紙 1 1

3 射水郡上條村↓同郡北野村 知行假所附可相渡旨達書 (宝永二年)十月二十三日 奥村内記↓茨木左大夫 切紙 1 1
知行所射水郡北野村

4 知行地引高・引免に而御成替 年未詳午九月十二日 御算用場↓熊谷久右衛門・茨木源左衛門 切紙 1 1
に付所付返上方申渡状 折封入

三五・一六 知行拝領礼状

1 亡父茨木宗入隠居知拝領に付礼状 (寛文十一年)十月二十二日 茨木伝右衛門↓脇田九兵衛・岡嶋五兵衛 1
御太刀御馬代銀子一枚・鮭塩引五尺進上、(奥書)進上取次「脇田九兵衛・岡嶋五兵衛」、綱紀印 続紙 1
2 隠居知被仰付に付御礼銭請取書 寛文十一年十一月二日 坂井安兵衛・山本清兵衛↓茨木伝右衛門 切紙 1

3 宗入老隠居知拝領之御印被成下状 (寛文十一年)十一月七日 熊谷久右衛門政重・高田勘右衛門友種↓ 切続紙 1
封紙上書「茨木伝右衛門様 熊谷久右衛門 高田勘右衛門、御印物壹通 組頭衆書状壹通 外切手二枚有」

三五・一七 知行判物留

1 致拝領御一行共之写 年月日未詳 茨木源五左衛門 袋綴 1 6
慶長十年前田利長知行宛行状、寛文七年前田綱紀知行宛行状

- | | | | | |
|---|---------------------------------------|---------|----|---|
| 2 | 利長様以来知行之次第
慶長十年〜寛永五年 | 年月日未詳 | 一紙 | 2 |
| 3 | 刑部等知行書上
刑部五百石・又右衛門三百石・小右衛門百石 | 年月日未詳 | 豎紙 | 1 |
| 4 | 御一行之写
慶長九年前田利長知行宛行状〜享保十六年前田吉徳知行宛行状 | 年月日未詳 | 袋綴 | 1 |
| 5 | 御一行之写
慶長四年前田利家知行所附〜享和元年前田齊廣役料宛行状 | 文化五年閏六月 | 袋綴 | 1 |

三五・一八 勤仕

- | | | | | | |
|---|--|-------------|--|---------------------|---|
| 1 | 御目付衆宮腰御越に付社并宮
道掃除之旨達書写 | (万治)五月八日 | 茨木右衛門長好・笹原織部経長・横山式部氏従↓寺中神主將監・権之丞 | 切紙 | 1 |
| 2 | 大勢院君御勤仕寺社奉行古記
大勢院は茨木右衛門、内容「寺社に而牢人者抱置之義法度之達に付三ヶ国寺社請書」、錯簡張込 | 承応二〜四年 | | 袋綴 | 1 |
| 3 | 寛文八年従伏木浦大坂并江戸登米
出船入用之事 折封入 | 寛文八年八月十日 | 御算用場↓茨木伝右衛門・神子田九右衛門 | 続紙 | 1 |
| 4 | 寛文十一年七月より同十月迄才川
橋掛直入用之事 | 寛文十一年十一月十八日 | 御算用場↓茨木伝右衛門・野村五郎兵衛・高畠次郎右衛門・坂井小右衛門・湊貞右衛門・辰巳金左衛門 | 封紙上書「御算用相濟書替」
続紙 | 1 |
| 5 | 延宝五年分小物成銀被召上材木并
御船御用御算用被遂御書替書等書類覚 | 天和二年十月 | | 一紙 | 1 |

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
6	御貯除知銀江戸御供御自用に可遣 申遣書	天和三年三月八日	奥村壱岐(庸札)↓茨木伝右衛門	一紙	1	
7	前同	貞享四年三月十六日	同前	一紙	1	
8	高山罷越之面々へ御渡之品々に付 申越書	(元禄六年)九月二日	会所↓井上勘左衛門	切続紙	1	
9	高山在番罷越に付御貯除知銀入用 に仕度段聞届書	癸酉(元禄六年)九月八日	奥村壱岐(惠輝)内辻才兵衛・米多次兵衛 ↓茨木伝右衛門様御家来衆中	切紙	1	
10	茨木左大夫義奥村故丹波守跡組差 加に付申渡書	乙酉(宝永二年)五月二十六日	奥村伊予(有輝)・村井出雲(親長)・前 田美作守(孝行)↓本多安房守(政敏)	切紙	1	
11	中将様御入之義に付書状	享保十一年十二月	↓茨木覚左衛門	切紙	1	
12	慈雲院様江戸御詰中之御自記	享保十三年・十四年	茨木源五左衛門	横帳	1	21
13	奥向女中等勤方に付書状	年未詳申七月朔日		切紙	1	
14	(安芸御前書状)	封紙上書「六月三十日 御紙面下書」異封		切続紙	1	
15	(安芸御前書状)	封紙上書「未十一月朔日御調被成候由二而同日御直二被下候 御筆」		切紙	1	
16	(安芸御前書状)	封紙上書「丁未十二月三日」 封紙上書「西六月五日 御筆」	↓覚左衛門	切紙	1	

17	(安芸御前書状)	年未詳正月十三日	↓覚左衛門	切紙	1
18	(安芸御前書状)	年未詳三月十二日	↓覚左衛門・十兵衛	切紙	1
19	(安芸御前書状)	年未詳五月六日	↓覚左衛門	切紙	1
20	(安芸御前書状)	年未詳五月十三日	↓覚左衛門	切紙	1
21	(安芸御前書状)	年未詳五月二十八日	↓覚左衛門	切紙	1
22	(安芸御前書状)	年未詳七月八日	↓覚左衛門	切紙	1
23	(安芸御前書状)封入	年未詳七月十三日	↓覚左衛門	切紙	1
24	(安芸御前書状)	年未詳七月十六日	↓覚左衛門	切紙	1
25	(安芸御前書状)	年未詳八月四日	↓覚左衛門	切続紙	1
26	(安芸御前書状)封入	年未詳十月十九日	↓覚左衛門	切紙	1
27	(安芸御前書状)	年未詳十月二十六日	↓覚左衛門	切紙	1
28	(安芸御前書状)封入	年未詳霜月二十六日	↓覚左衛門	切紙	1
29	(安芸御前書状)封 切紙入)	年月日未詳		封	1

※安芸御前は綱紀二女節のことで、安芸(広島)の浅野家に嫁いだことから安芸御前と称された。茨木覚左衛門は享保三年二月に安芸御前様御附物頭並に任命され、江戸詰勤仕となる。史料14〜29番は、以上の経緯から安芸御前あるいは御附女中関係の書状と推定したものである。

番号 標 題

年月日

差出(作成)宛名

形態

点数 墨付

三五・二 由緒

三五・二 茨木家

- 1 茨木源五左衛門先祖由緒并一類附帳 享和二年五月 茨木源五左衛門↓前田大炊 袋綴 1 9
- 2 汲古雜帖 乾(文書十三点貼足) (嘉永四年) 森田平之佑(良見)編 折本 1 1

・承応二年二月二十五日 安藤次兵衛暇願誓詞添状 茨木右衛門・黒坂吉左衛門↓大橋又兵衛・湯原八之丞・岡嶋兵庫・原五郎左衛門

・承応二年二月二十三日 安藤次兵衛暇願に付誓詞 青山織部・岡嶋甚七組 安藤次兵衛↓茨木右衛門・黒坂吉左衛門

・卯月十二日 御与内黒坂・渡部縁辺被仰出に付一札 浅井少兵衛↓茨木源五左衛門・熊谷久右衛門

・寅三月六日 縁者・親類之義に付届書 多田次郎左衛門↓山岡甚大夫

・四月二十九日 金沢飛脚に持進状之覚 本多図書↓茨木覚左衛門

・九月二十九日 飛州御用足輕小頭代人に付報状 辻長右衛門・斉藤八大夫↓茨木伝右衛門

・九月二十二日 飛州御用足輕三十三人報状 斉藤八大夫・辻長右衛門↓茨木伝右衛門

・宝永二年十二月二十一日 取替銀相済覚 茨木左大夫↓茨木貞右衛門

・九月二十六日 足輕小頭不足人補充報状 斉藤八大夫・辻長右衛門

・申三月十八日 御判物頂戴に付礼状 茨木覚左衛門↓前田近江守・奥村伊予守・横山大和守他十名

・丁卯(延享四年)三月朔日 茨木覚左衛門遺言書 (茨木覚左衛門)↓拾壺人殿

・享保十九年八月六日 茨木氏野田山墓所請地覚并絵図

・乙卯(享保二十年)七月八日 茨木家墓所地子銀受取書 桃雲寺典座↓伏田金右衛門・山川甚助

- 3 汲古雜帖・寛量院様御年譜指上書 亥(嘉永四年)十二月七日 森田平之佑↓森田大作・山川十郎兵衛 封紙入 切統紙 1

- 4 縁戚書上 年月日未詳 切紙 2

5 茨木操一類附

明治十八年二月

茨木操↓山岸弘

折紙

1

三五・二一―追 茨木譜備考並年譜等(帙入)

明治十一年八月 森田良見編

袋綴

20冊

(1510)

茨木譜備考 文久二年三月(一卷序文)10冊、(11)藩公御一行物写

1冊、(12)澄源院君年譜 嘉

永七年六月

1冊、(13・14)寛量院君御年譜

嘉永四年十一月四日

2冊、(15517)寛性院君御年譜 安政

四年十一月二十七日

3冊、(18)藻塩草 嘉よう(永)七年霜月(序文)

1冊、(19)落ち葉の露 安政二年

十月十日 2冊

本書の帙には「柿園舎藏書」として、本書の由来が記され、「弘化以来奉寛性君(茨木主膳)之内命」によつて茨木家の家譜が編纂され、「嘉永七年十月漸脱草稿、正家譜一冊選定」されたとする。本書は一冊本であつた家譜に係事項を追記して十冊本としたものである。12517の家譜についても茨木家々譜編纂に関わるもので、史料三五・二一―3には嘉永四年に「寛量院君御年譜」を柿園が提出したことが記される。本書は「森田家」に所蔵するために作られたものであつたが、近代に入つて茨木家に贈られたものと推測される。

三五・二二 遺言書

1 茨木伝右衛門遺言書

元禄六年八月十八日

茨木伝右衛門↓奥村壹岐(惠輝)

一紙 1

封紙上書「遺書 茨木伝右衛門」

2 茨木伝右衛門遺言書

元禄十年五月二日

茨木伝右衛門↓奥村壹岐

一紙 1

封紙上書「遺書 茨木伝右衛門」
「如此相□り六月二十四日七つ時由比□兵衛同道二而遺物共壹岐殿へ持参上候

ひかえ」

3 茨木源五左衛門遺言書

享保十五年八月十五日

茨木源五左衛門↓奥村伊予守・横山大和

守・本多安房守・長甲斐守・前田大炊・奥村内記・村井主膳・津田玄

蕃・前田修理・前田勘解由・中川式部・玉井市正 一紙 1

封紙上書「遺書 茨木源五左衛門」
「享保十五年八月十五日調置」

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
4	茨木主殿遺言書	弘化二年三月二十五日	茨木主殿↓長將之佐(連弘)	一紙	1	
	封紙上書①「弘化二年三月二十六日見届之 茨木主殿遺書 長將之佐」②「遺書 茨木主殿」③「弘化二年三月二十					
	六日將之佐殿見届 遺書」					
5	茨木源五左衛門遺言書	安政五年九月二十一日	茨木源五左衛門↓村縫殿右衛門・堀半左衛門			
	封紙上書「茨木源五左衛門遺書 後操卜改」「安政五年九月二十一日見届之 村縫殿右衛門」			一紙	1	
6	遺言書雛形	年月日未詳		一紙	1	
三五・二三 家計(扶持・貸借)						
1	勝手方諸色図帳	天和三年二月九日	奥村志岐↓茨木伝右衛門	袋綴	1	8
	延宝五年閏十二月二十七日		茨木伝右衛門↓神尾数馬・富永小右衛門			
2	江戸渡御扶持差引返上申渡書	年未詳正月十九日	御算用場↓茨木伝右衛門	切紙	1	
	折封入					
3	前同	前同	前同	切紙	1	
4	元禄十三・十四年分金銀請払算用済之事	元禄十五年十二月四日	(茨木)左大夫↓竹村弥三丞	一紙	1	
5	収納米預御請合証文	明和九年六月	放生津町松屋源四郎・同所松屋長右衛門↓	続紙	1	
	紙背「御一行之写帳 二二包紙入		茨木鉄次郎様御内山川五右衛門・坂井五大夫	長帳	1	7
6	寛量院様御遺物留帳	文政四年十二月	表紙上書「文政四年巳十二月 寛量院様御遺物留帳并妙玄隠様御模様払留卜毛」			
7	知行地別蔵入地書上并請取切手数覚書	年未詳五月	御算用場↓茨木鉄次郎	切紙・切続紙	2	
8	掛物長持入目録	庚戌(嘉永三年)		切続紙	1	
	探幽三幅対等三十六件					

9	兵助殿より来ル道具共覚 片山中脇刺等四十二件	年末詳戌十二月		横帳	1	6
10	権之丞等へ遣之品々書上 権之丞へ十品、権之丞奥へ十一品、三之助へ四品、お春へ十一品、あへりへ五品	年末詳十二月四日	伊藤平兵衛↓茨木権丞	切続紙	1	
11	茶わん書上 封紙上書「祖開院殿御手跡」	年末詳五月三日		切紙	1	
12	のりおし板・さい工箱等代金覚	年月日未詳		切紙	1	
13	借用金利足等算用書	年末詳西二月	小川代理人新川除町北谷信夫	切紙	1	
14	錢借用証文 奥書「小川信行・堀江脇次郎」	明治六年二月	高柳咸政↓茨木操	一紙	1	
15	金子拝領に付証文一札 奥書「請人六斗林越野久右衛門・同おほちく」	明治十年三月二十二日	乳母↓久江常男	罫紙	1	
16	金子借用証文	明治十三年七月	吉野五十八郎・保証人茨木忠顕↓茨木操	証紙	1	
17	金子借用証文	明治十三年十二月二十七日	菊池武及↓茨木操	一紙	1	
18	金子受領証	明治十四年二月二十七日	橋場町檜田久次郎↓茨木	切紙	1	
19	中勘金請取書	明治十四年八月三十一日	小島義央↓茨木	一紙	1	
20	作料決算相済に付証文一札	明治十五年七月十四日	森幸吉↓茨木	切紙	1	
21	金子借用証文	明治十六年一月一日	借用人片町額谷弥平・受人大工町竹村与右衛門↓茨木操	証紙	1	
22	金子借用証文	明治十八年五月	水溜町茨木操↓中谷和兵衛	罫紙	1	

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
1	三五・二四 日記・小払帳	宝曆十年正月		胡蝶装	1	54
		宝曆十年正月一日～六月二十九日分				
2	金銭請払並日記	明治三年正月～十二月		長帳	1	46
		表紙「明治三年ヨリ同十二月マテ 金銭並日記 当年於信出生七月二十九日ナリ」				
3	日記並小払帳	明治四年正月～十二月		長帳	1	10
		表紙「明治四年辛未正月ヨリ同十二月マテ 日記並小払帳 当年於文出生但十一月十日ナリ」				
4	日記並小払帳	明治五年正月～同八年十二月		長帳	1	27
		表紙「明治五年壬申正月ヨリ同八年十二月三十一日マテ 同年五月十日水溜町家作江引移 日記並小払帳 明治七年五月二十三日琴美出生」				
5	日記並小払帳	明治九年一月～同十五年		長帳	1	40
		表紙「明治九年丙子一月一日ヨリ同十五年マテ 日記並小払帳 明治九年子八月十九日清次郎出生 同十二年卯六月二十九日貞出生同十四年巳二月十五日捨男出生同年四月病死 同十五年午二月二十三日銓出生」				
6	日記	明治二十三年一月～同三十二年		長帳	1	34
		表紙「明治二十三年一月改同三十二年ニ至ル 日記 明治二十三年五月一日幾重出生 同二十四年十二月十一日吉野五十八郎片養女ニ遣ス 同二十五年四月十日早道町四十三番地転宅 同二十七年三月四日忠彦出生 同年種痘」				
7	日記	明治三十五年一月～十二月		横帳	1	119
8	日記	明治三十七年一月～十二月		横帳	1	118

三五・二五 縁組願

1 茨木源五左衛門孫娘縁組願一件 辰六月十五日・七月二十二日

続紙・折紙

2

・茨木源五左衛門娘縁辺願書 辰六月十五日 茨木源五左衛門↓奥村因幡・奥村河内・今枝民部・前田対馬(奥書)
 茨木源五左衛門甥馬廻吉田次右衛門と縁辺申合旨申上書 六月十五日 茨木源五左衛門↓充所なし
 ・茨木源五左衛門孫娘縁組願聞届状 辰七月二十二日 今枝民部(近義)・奥村因幡(和豊)・奥村河内(栄清)・前田
 対馬(孝貞)↓茨木源五左衛門

封紙上書「茨木右衛門様・伊藤内膳様・菊池大学様 青地四郎左衛門・岡嶋兵庫・岩田内蔵助」

2 茨木伝右衛門嫡子并息女縁組願一件 己巳(元禄二年)三月十九・二十日

切紙 1
 長帳 3

・茨木左大夫願之通縁辺可申合申渡書 己巳三月十九日 津田玄蕃孟昭・横山筑前正房・奥村伊予時成・前田佐渡
 孝貞・本多安房政長↓奥村因幡

・茨木伝右衛門娘願之通縁辺可申合申渡書 己巳三月十九日 差出・宛名前同

・嫡子并娘縁組願之義聞届に付副書 己巳三月二十日 奥村因幡惠輝↓茨木伝右衛門

・縁組願聞届に付登城御礼可申上申渡書 三月二十日 奥村因幡↓茨木伝右衛門

封紙上書「左大夫并娘縁組奉願処己巳三月二十日兩人縁組被仰付御老中より御紙面二通并奥村因幡殿より副状老通」

三五・二六 婚儀

― お鉄婚儀 ―

1 お鉄様御婚礼御用諸事留 安政五年十一月

2 お鉄様御引移一件綴 万延元年四月

袋上書「万延元年四月 お鉄様御婚礼一件 但山岸久太郎様御縁組也」

― 茨木源五左衛門再縁 ―

3 茨木源五左衛門御再縁御願書 丁卯(慶応三年)四月十六日 茨木源五左衛門↓斉田重郎左衛門・由比覚

左衛門 続紙 1

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
4	仙石堅二郎妹縁組願書 再縁御願書附	丁卯(慶応三年)四月	仙石堅二郎↓津田玄蕃・前田図書・中川式部	一紙	1	
5	仙石堅二郎様御妹縁組御用諸事留 御道具目録	慶応三年四月 (明治二年)二月四日	沢崎七郎左衛門↓山川十郎兵衛・坂井三之丞	袋綴	1	46
6	封紙上書「御道具目録」			一紙	1	
7	御引移之節御土産物下帳	明治二年二月		長帳	1	7
8	御土産物控帳	明治二年二月		長帳	1	5
9	御引移り并御舅入御都合帳	明治二年二月		袋綴	1	12
10	御道具附	明治二年三月六日		長帳	1	4
11	袋上書「明治二年己巳三月六日御輿入 同日御舅入同月十六日御卿開 忠恕公御再縁一件 但仙石堅二郎様御妹様也 并初産一件」、御用御菓子所 金沢香林坊橋高 米屋与三八の菓子袋			袋綴	1	14
12	御引移御作法帳			長帳	1	2
13	茨木源五左衛門御再縁諸届等留 (明治二年) — お直婚儀 — お直拵付下帳	明治八年五月三日		長帳	1	4
14	長刀・守脇刺・挟箱・指駕籠等 お直さ婚礼拵買上物等留	明治八年五月		長帳	1	3

15	さんこふし・蒔絵重居・双六盤石とも等 御着帯御祝進片等しらへ帳 明治九年七月	長帳	1	3
	袋上書「明治八年八月十八日 操長女直菊池武及方江婚礼一件 并初産一件 同九年十一月四日也」 内容「隠婆入用方」「御出生様御入用之分」「出産之上調理」			
16	菊池家等続柄之覚	菊池武及	切続紙	1
17	結納口上書	菊池武及 ↓茨木操	切続紙	1
18	引手人・刻限等覚		切紙	1
19	御道具請取帳 一番道具く四番道具まで	菊池武及	長帳	1
20	小袖箆笥等道具書上 前史料の箆笥・長持の前身		長帳	1
21	長刀等道具書上帳		長帳	1
22	綿入・服紗等書上帳		長帳	1
23	扇子箱等書上		切紙	1
24	御懸磐等代金算用書	久江常男 ↓茨木	切続紙	1
25	お直さ引移祝義物覚		長帳	1
26	祝義品配布覚		長帳	1
27	出入人等振舞覚		切続紙	1
28	下之分献立書		切紙	1
	お信婚儀			
29	茨木信婚義に付縁女続柄書 袋上書「明治十八年二月 操二女信婚礼一件」	茨木操 ↓山岸千吉	折紙	1

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
30	御道具受取茂久録 封入	明治十八年二月二十七日	山岸弘↓茨木操	長帳	1	2
31	山岸弘・千吉一類附 封入	明治十八年二月	山岸弘・千吉↓茨木操	折紙	2	
32	上下料理員数覚	年月日未詳		切紙	1	
三五・二七 子女						
1	茨木源五左衛門末期養子願に付 返書	戊(安永七年)閏七月	不破新兵衛↓茨木源五左衛門	切続紙	1	
2	産婦渡之出生御仕切銀請取書	年未詳辰九月十四日	御座屋茂兵衛↓茨木源太左衛門様御役人	衆中 切紙	1	
3	母子共御屋敷出入不仕旨一札	年未詳辰九月十四日	御座屋茂兵衛↓茨木源太左衛門	切紙	1	
4	茨木源五左衛門奥方安産一件	明治三年四月〜八月		袋綴	1	9
	表紙「明治三年庚午四月より八月迄 名信式番目娘 源五左衛門奥方安産一件留帳 但奥方初産也」					
5	産子之義に付祝詞状	年未詳七月十八日	山岸弘↓茨木操	切続紙	1	
6	男子貫請証文	明治十六年八月十五日	宮野信一↓茨木忠良	証紙	1	
	奥書「東谷清太郎」					
7	男子貫請約定書	明治十八年二月	明石伊三郎↓茨木操	罫紙	1	
	奥書「金沢区鱗町 雇人受宿営業 清水五市」					
お宅一件						
8	召仕人娘之義に付届書	元禄二年二月二十一日	茨木伝右衛門↓岡嶋市郎兵衛・不破彦三			
9	切支丹類族之義申談に付可罷越達	年未詳二月二十二日	斉藤中務・野村五郎兵衛・山崎治部右衛門	一紙	2	

10 茨木伝右衛門娘切支丹末類に付 元禄二年三月十日
御預之義届書并届書に付申付書

↓茨木伝右衛門 切紙 1
①茨木伝右衛門↓岡嶋市郎兵衛・不破彦三・
斎藤中務・山崎治部右衛門・野村五郎兵衛
②野村五郎兵衛↓茨木伝右衛門

11 お宅死去届

①茨木伝右衛門娘死去之義切支 元禄八年十一月二十四日
丹類族に付届書

茨木伝右衛門(左大夫代判)↓岡嶋市郎兵
不破彦三・山崎源五左衛門・野村五郎兵衛・
半田惣兵衛・奥村市右衛門 一紙 1

封紙上書「元禄八年十一月二十五日 お宅死去二付一卷書付共々ひかえ」

②吉田茂平内室死去之義切支丹 元禄八年十一月二十五日
類族に付宗門奉行御届之旨承

奥村壺岐内米多平左衛門・米多弥次兵衛↓
茨木伝右衛門様内今井忠兵衛 切紙 1

知方返書 封入

12 ③届紙面請取之旨返書 (元禄八年)十一月二十六日
切支丹類族之者死去に付寺証文 元禄八年十一月

半田惣兵衛↓茨木左大夫 切紙 1
続紙 1

継立届書

①加賀金沢禅宗瑞雲寺↓窪田喜右衛門・恒川又助

②窪田喜右衛門・恒川又助↓岡嶋市郎兵衛・不破彦三・山崎源五左衛門・半田惣兵衛・野村五郎兵衛・奥
村市右衛門

13 ③在江戸二付せがれ左大夫代判 茨木伝右衛門↓宛所右六人
黒田権丞娘市檀那寺并請人書 年月日未詳

切紙 2

番号 標 題

年月日

差出(作成)宛名

形態

点数 墨付

三五・二八 交際

1	稽古始め候義に付案内書状	年未詳正月十一日	前田土佐守(直躬)↓茨木左大夫	切紙	1
2	こころ遣いお世話方に付礼状	年未詳卯月十七日		切紙	1
3	西條柿被下候時分御書付	年未詳四月二十七日		切紙	1
	封紙上書「四月二十七日西條柿被下候時分御書付 御筆」				
4	大膳殿四十九日之義に付書状	年未詳五月十一日	↓覚左衛門	切紙	1
5	敷物之義に付書状	年未詳六月四日	↓覚左衛門	切紙	2
6	居宅伺の義に付書状 封紙入	年未詳六月二十一日	↓覚左衛門	切紙	1
7	到来すいかに付書状	年未詳八月四日	↓覚左衛門	切紙	1
	封紙上書「目出度笑草二つかわし候」				
8	寒中見舞并懇志之礼状	年未詳十一月二十六日	寺西弾正↓茨木源五左衛門	切統紙	1
9	歳暮祝儀之書状	年未詳極月二十八日	酒↓覚左衛門	切紙	1
10	音信書状	年月日未詳		切紙	2
11	中川家本多家隠居之覚	年月日未詳		切紙	1
12	茨木家出入人等員数書	年月日未詳		切紙	1
13	肴頂戴に付礼書状	明治二十一年五月十三日	仙石政直↓生駒義直・茨木操	切統紙	1
14	無音打過之義に付詫書状	年未詳五月三日	山岸千吉↓尚友庵尊丈	切統紙	1
15	宗順病氣之義に付書状	年未詳八月四日		切紙	1
	封紙上書「八月四日御書 同十九日出 御請成候」				
16	豊嶋是將等住所覚	年月日未詳		切紙	1
17	列国志差上に付書状	年月日未詳	為文↓亀水	切紙	1

三五・二九 屋敷

- 1 仙石町御居屋鋪古図并新屋敷二 年月日未詳 一鋪 9
- 可建御住居之絵図等 袋入
- 2 茨木町屋敷地坪数図 年月日未詳 一鋪 1
- 3 茨木町屋敷略尺図 年月日未詳 一鋪 1
- 4 御家相判断并改補図 袋入 年月日未詳 折紙・一枚 2

三五・三〇 家中

三五・三一 家政

- 1 御格式帳 元文五年六月二十九日 袋綴 15
- 2 当家立身繁昌之願懸に付申送状 天保十一年九月六日 一紙 1
- (主殿)忠順
- 3 御屋敷向諸旧例 上 弘化三年五月 袋綴 1
- 表紙「御屋敷表諸例 年中行事諸例 御法事等之諸例 寺方之諸例」
- 4 御家臣向諸旧例 下 弘化三年五月 切紙 1
- 表紙「御家臣諸例 同勤向之例 御知行御扶持方被下諸例 御家臣病死等諸例」
- 5 御格式牒 嘉永四年正月 袋綴 30
- 第一御判物書法、第二御扶持方より新知被仰付候濟方御定、第二十御近火之節日用賃錢定、年中行事

三五・三二 知行

- 1 茨木小刑部知行宛行状 寛永四年卯月朔日 折紙 1
- 封紙上書「寛永四年卯月朔日 知行遣候 ひかへ帳」 百十石宛行
- 茨木小刑部↓茨木内蔵丞

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
2	茨木小刑部知行宛行状	寛永十三年十二月十一日	茨木小刑部(源吾左衛門)↓松田寛兵衛			
	封紙上書「茨木源五左衛門殿」紙背「寛永三年十二月二十四日知行高五拾石中川作右衛門、寛永拾三年十二月二十四日二加増共二知行高五拾石堀田佐郎右衛門、十二月二十四日覚書、高五拾石遣候 寛永拾五年三月九日二小杉權兵衛二」百石宛行					
3	茨木右衛門知行宛行状	承応二年八月六日	茨木右衛門(源吾左衛門)↓竹村市兵衛			
	封紙上書「承応二年 右衛門様御判物」百石宛行					
4	茨木伝右衛門知行宛行状	延宝四年二月九日	茨木伝右衛門長重↓竹村市兵衛			
	封紙上書「延宝四年 伝右衛門様御判物」百石宛行					
5	道啓(左大夫)知行宛行状	宝曆六年七月	道啓(茨木左大夫)↓山川五右衛門			
	遺知八十石					
6	子成(左大夫)知行宛行状	宝曆八年二月	子成(茨木源五左衛門)↓坂井五大夫			
	新知六十石					
7	自道(源吾左衛門)知行宛行状	安永七年七月六日	自道(茨木源五左衛門)↓森田武右衛門			
	加増知十石、合五十石					
8	茨木源五左衛門知行宛行状	安永七年十月十一日	茨木源五左衛門↓山川長右衛門			
	袋上書「御紙面等入」八十石宛行					
9	扶持目録	年月日未詳	↓竹村初三郎			
10	御判物留	安政三年正月				
	御判物書法、寛永四年茨木小刑部長好知行宛行状、明治二年茨木源五右衛門忠恕知行宛行状					
11	家臣扶持引足覚	慶応三年正月、明治二年十月				
12	茨木家譜代家来共相続并扶持	巳(明治二年)十一月	茨木源五左衛門			

袋綴 1 10

切統紙 1 1

一紙 1 1

折紙 1 1

袋綴 1 29

折紙 1 1

米高等交名帳

三五・三三 由緒一類附帳

- | | | | | | | |
|----|------------------|---------------|---------------------------|----|---|---|
| 1 | 松原源吾一類附 | 天保十三年十二月 | 松原源吾↓山川十郎兵衛・森田大作 | 袋綴 | 1 | 5 |
| 2 | 永嶋喜兵衛由緒一類附 | 弘化四年九月 | 永嶋喜兵衛↓山川恒左衛門・坂井五大夫 | | | |
| | 封入 | | | 続紙 | 1 | |
| 3 | 堀江善兵衛先祖由緒并一類附 | 安政三年二月 | 堀江善兵衛↓坂井五大夫・森田平佑・久江五兵衛 | | | |
| | 袋上書「嘉永四辛亥六月取立指出分 | 安政三年御代替二付取立候分 | 御家臣由緒一類附牒」 | 袋綴 | 1 | 8 |
| 4 | 田中弥三右衛門由緒一類附 | 安政三年二月 | 田中弥三右衛門↓坂井五大夫・森田平之佑・久江五兵衛 | 袋綴 | 1 | 5 |
| 5 | 久江五兵衛先祖由緒一類附帳 | 安政三年五月 | 久江五兵衛↓森田大作・山川十郎兵衛 | 袋綴 | 1 | 6 |
| 6 | 高柳才右衛門由緒一類附 | 安政三年五月 | 高柳才右衛門↓森田大作・山川十郎兵衛 | 袋綴 | 1 | 8 |
| 7 | 舟嶋仙之丞由緒一類附帳 | 万延二年三月 | 舟嶋仙之丞↓山川十郎兵衛・坂井五大夫 | 袋綴 | 1 | 4 |
| | 奥書「成瀬内蔵助家来中小将組 | 松木茂右衛門」 | | | | |
| 8 | 広瀬政次郎由緒并一類附帳 | 文久元年八月 | 広瀬政次郎↓山川十郎兵衛・坂井五大夫 | 袋綴 | 1 | 4 |
| | 奥書「仙石内匠家来給人 | 伊藤甚之丞」 | | | | |
| 9 | 福岡弥三郎由緒一類附帳 | 文久二年十一月 | 福岡弥三郎↓山川十郎兵衛・坂井五大夫 | 袋綴 | 1 | 3 |
| | 奥書「福岡貞之丞」 | | | | | |
| 10 | 鶴木義三郎由緒一類附帳 | 元治元年三月 | 鶴木義三郎↓山川十郎兵衛・坂井五大夫 | 袋綴 | 1 | 4 |
| | 奥書「藤田多十郎」 | | | | | |

番号 標 題 年月日 差出(作成)↓宛名 形態 点数 墨付

三五・三四 宗門改

1 宗門相改帳 寛文四年七月二十七日 茨木源五左衛門 袋綴 1 21

茨木家并召仕候下々男女宗旨之覚

2 家来男女宗門改帳・御組同心妻子 寛保二年五月六日 茨木覚左衛門 袋綴 1 18

等宗門改帳・家来宗門改帳合綴

①・② 茨木覚左衛門↓青山將監・菊池十六郎・品川主殿・溝口舍人・丹羽武兵衛・土肥庄兵衛・宮崎長大夫、③ 小頭中嶋宅左衛門・桑名金五右衛門・木村銀左衛門↓高畠義兵衛・阿閉十郎兵衛・野々村庄大夫・荒尾作左衛門、同五名↓茨木覚左衛門、茨木覚左衛門↓①の六名宛、④③の五名↓茨木覚左衛門、茨木覚左衛門↓①の六名宛

三五・四 学芸

三五・四一 一般

1 神之信影流伝書 安政六年六月 山森武大夫近林↓茨木源五左衛門 一卷 1

封紙上書「免状 茨木源五左衛門殿」、題箋「天狗書目録」

2 謡独吟伝授目録 文久元年五月 竹田金春権兵衛安得↓茨木源五左衛門 折紙 1

翁・淡路・菊露・五節句・鶯・望月・山家秋・石橋

3 邦家親王家系図 年月日未詳 一枚 1

将棋譜面 年月日未詳 切紙 1

5 芝居来歴等覚(錯簡) 年月日未詳 折紙 1

6 帙寸法書 年月日未詳 一紙 1

7 京はじまり之事覚書 明治十五年 茨木 袋綴 1 9

8	冠紐・笏・袍用法	年月日未詳					
9	遊学人訓書	昭和十八年六月改					
	封上書「遊学人近作入」					みき雄	

三五・四二 俳諧

1	蕉門手筋に付一枚記請文	年月日未詳					
	端書「嵐雪二代雪中庵蓼太作力」						
2	晴霞追悼之文	慶応紀元八月				槐庵大夢(直山大夢)	一紙
3	俳諧雜記 上	明治十八年四月より				尚友庵(龜水・茨木操)	小帳
	文台硯箱扱・明治十九年十一月三日蕉風明倫教会金沢分院開院式ノ節尚友庵龜水執筆勤メタル手續等						
4	短冊書方等聞書	明治十八年四月					横帳
	尚友庵龜水俗鐫	明治十八年					切紙
	① 龜水尊丈清嘯(龜水)	明治十八年六月	剛堂篆	1			
	② 龜水尊丈雅嘯(尚友庵・龜水)	明治十八年七月	剛堂篆	2	封入		
	③ 尚友尊丈雅嘯(入佳境)	明治十八年八月	剛堂篆	1			
	④ 尚友名典扱	年月日未詳		1			
	⑤ 尚友庵名書(龜水印影)	年月日未詳		1			
6	卷撰留(錯簡)	明治十八年七月二十四日より					横帳
7	淇園句評文	明治十八年十月				淇園(神谷淇園)	一紙
8	尚友庵翁祭脇起俳諧の連歌	明治十八年十一月十五日				高吟 他	豎紙
9	二第準繩	明治十九年六月五日				尚友庵龜水写	罫紙綴
	元禄八年一月雪中庵嵐雪述、明治三年桃守写、明治十九年六月五日桃芽ヨリ借写ス尚友庵龜水						

番号	標 題	年月日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
10	蕉風分院開設の祝辞 (明治十九年)		尚友庵 亀水	切紙	1	
11	蕉風明倫教会金沢分院教導職交名書 (明治十九年) 少講義野代谷徳次郎(桃芳)、以下訓導五名、権訓導三名、試補五名、訓導二名、権訓導四名、試補一名、権訓導一名、茨木操(亀水)は訓導 封入		(亀水)	折紙	1	
12	蕉風明倫会文台扱	年月日未詳		折紙	1	
13	茨木操俳句帳	明治三十二・三十三年	操(茨木)	長帳	1	21
14	塗板御昇に付祝状 封入	年未詳四月十三日	桃守↓亀水	切紙	1	
15	桃守発句歌仙	年未詳六月三日	桃守 他	罫紙綴	1	3
16	年未挨拶状	年未詳十二月二十四日	桃芳↓亀水宗匠	切紙	1	
17	年未挨拶状并句 封入	年未詳十二月二十六日	桃芳↓亀水宗匠	切紙	2	
18	鶯□句	年月日未詳	鶯□	切統紙	1	
19	十丈園句写	年月日未詳	十丈園↓栗山雅君	一紙	1	
20	はせを句写	年月日未詳	はせを	切紙	1	
21	旭雲句	年月日未詳	旭雲↓与貴	切紙	1	
22	杜宇発句連歌	年月日未詳	杜宇 他	一紙	1	
23	来三句 尚友詣乃神床に額て	年月日未詳	来三	一紙	1	
24	為流句	年月日未詳	為流	切紙	2	
25	為流・亀水連歌 封入	年月日未詳	為流・亀水	罫紙綴	1	2
26	今人道之記発句等	年月日未詳		小帳	1	23
金沢より北越へ至る途中の句 桃芳、祖師芭蕉翁伊賀の山中にての事 明治二十年九月十二日 桃芳、石狩分院 開行式次第 明治二十一年三月 蕉風明倫教会長少教正三森三支雄、他 舛入						

27	句三首	年月日未詳		切紙	1
28	尚友庵評点	年月日未詳		罫紙	1
29	鶏旦、仙石様御内室ノ事 花笑句、等	年月日未詳		切紙	1
30	師を撰帶職せられしを賀す等之	年月日未詳		切紙	1
31	祝詞句三首	年月日未詳		切紙	1
32	其一 句九首	年月日未詳	其一	小帳	1
33	蒼虬など祝吟	年月日未詳		小帳	6
34	七十四の春を迎へたるに人々のことふきを謝して	年月日未詳	梅室、明治二十一年古希自賀 居六、他	小帳	1
35	華の巻 鯉鱗行	年月日未詳	尚友庵・小春庵	小帳	1
36	句注解	年月日未詳		切紙	4
三五・四三 俳句短冊					
1	槐庵大夢俳句短冊	年月日未詳	槐庵大夢(直山大夢)	短冊	3
2	封紙上書「奉御餞別 槐庵大夢」	年月日未詳		短冊	1
3	四時俳句短冊	年月日未詳	四時	短冊	1
4	竹歌俳句短冊	年月日未詳	竹歌(内山善成)	短冊	2
5	起広俳句短冊	年月日未詳	起広	短冊	1
6	龜水俳句短冊	明治十九年一月一日他	龜水(尚友庵・茨木操)	短冊	8
7	笑草俳句短冊	年月日未詳	笑草	短冊	1
8	桃芳和南俳句短冊	年月日未詳	桃芳和南	短冊	1
9	小春庵桃芳俳句等短冊	年月日未詳	小春庵桃芳	短冊	11
10	桃公俳句短冊	年月日未詳	桃公(杜宇 改)	短冊	1

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数 墨付
10	桃寿俳句短冊	年月日未詳	桃寿	短冊	1
11	撫永俳句短冊	年月日未詳	撫永	短冊	1
12	桃守俳句短冊	年月日未詳	桃守	短冊	3
13	文器俳句短冊	年月日未詳	文器	短冊	1
14	義幸俳句短冊	年月日未詳	義幸(山崎義幸)	短冊	1
15	南溪俳句短冊	年月日未詳	南溪	短冊	1
16	翠峰俳句短冊	年月日未詳	翠峰(木村弟四郎)	短冊	3
17	居六俳句短冊	年月日未詳	居六	短冊	3
18	三尾女俳句短冊	年月日未詳	三尾女	短冊	1
19	来三俳句短冊	年月日未詳	来三(清水祐世)	短冊	3
20	柳子俳句短冊	年月日未詳	柳子	短冊	1
21	鬼文俳句短冊	年月日未詳	鬼文(荒木文平)	短冊	2
22	双文俳句短冊	年月日未詳	双文	短冊	1
23	習桃俳句短冊	年月日未詳	習桃	短冊	1
24	為流俳句短冊	年月日未詳	為流	短冊	3
25	桃月俳句短冊	年月日未詳	桃月(岡田重栄)	短冊	1
26	普麦俳句短冊	年月日未詳	普麦	短冊	2
27	北塵俳句短冊	年月日未詳	北塵(佐々木一峰)	短冊	1
28	桃慮俳句短冊 奉尚友庵翁祭に	年月日未詳	桃慮	短冊	1
29	朧月俳句短冊	年月日未詳	朧月	短冊	1

30 (信証) 俳句短冊

年月日未詳

(信証)

短冊

1

三五・四四 和歌短冊

1 基庸和歌短冊(海辺春望)

年月日未詳

基庸(山本源右衛門)

短冊

1

貼紙「持明院流名筆 松雲公時代藩士山本源右衛門基庸」

2 歌女和歌短冊

天保十・十一年

歌女(寛性院)

短冊

2

①我肩衣に少しやけあないて詠候 天保十年十二月晦日

②新葉集春の上梅の花読給ふ歌 天保十一年正月元旦

封紙上書「寛性院殿御手跡」寛性院は茨木忠順の法名 異封

3 忠順祝詠和歌短冊

弘化四年十二月二十九日

忠順(茨木忠順)

短冊

1

4 利家和歌短冊(複製)

明治三十二年

前田利家

短冊

1

貼紙「利家卿御真筆 右ノ通記録アレトモ明治三十二年尾山神社三百年祭ノ節同神社所蔵利家卿真筆短冊ノ写ナリ

操其節同神社々掌奉職中ニテ三百年祭砌貰受タリ」

5 作平和歌短冊(夢宿梅)

明治四十三年二月

(上田)作平

短冊

1

6 鳥野幸次和歌短冊(複製)

(大正十三年)

宮内省御歌所寄人鳥野幸次

短冊

1

封紙上書「新田義貞公六百年大祭記念短冊」

7 香淳皇太后御歌短冊

年月日未詳

香淳皇太后、入江為守書

短冊

3

御歌所長子爵入江為守謹書

8 自道和歌短冊(夏燈 他)

年月日未詳

自道(茨木源五左衛門)

短冊

8

9 茨木操和歌短冊(秋懷旧)

年月日未詳

(茨木)操

短冊

1

10 理応院和歌短冊(依所月明)

他)年月日未詳

理応院(茨木敬長実母)

短冊

4

11 道啓和歌短冊(与君生此世)

他)年月日未詳

道啓(茨木左大夫)

短冊

3

番号	標 題	年月日	差出(作成)↓宛名	形態	点数 墨付
12	澄源院様御会之節短冊 衆好 3、昌陽 3、直郷 3、昌昭 1	年月日未詳	衆好 他	短冊	10
13	封紙上書「朝源院様御会之節御短冊 道啓卜御名有之ハ御読歌御直筆 其余之品々ハ同会ニ参リ居候人々歌」 清次郎喜寿之和歌短冊	年月日未詳	清次郎(茨木)	短冊	1
14	庸之和歌短冊(三周忌追慕のうた)	年月日未詳	庸之(安田六郎)	短冊	1
15	露盤和歌短冊(父)	年月日未詳	露盤	短冊	1
16	秋香和歌短冊(水郷春曙)	年月日未詳	秋香	短冊	1
17	西南和歌短冊(秋海 他)	年月日未詳	西南	短冊	2
18	西陳和歌短冊(湖辺納涼)	年月日未詳	西陳	短冊	1
19	依平和歌短冊(春風解氷)	年月日未詳	依平	短冊	1
20	弘和歌短冊(雨中郭公 他)	年月日未詳	弘	短冊	2
21	文彦和歌短冊	年月日未詳	文彦	短冊	1
22	武及和歌短冊(菊の御宴をよめる)	年未詳十一月八日	武及	短冊	1
23	梅粧和歌短冊	年月日未詳	梅粧	短冊	1
24	羽束和歌短冊	年月日未詳	羽束	短冊	1
25	千吉和歌短冊(茨木大人の菊を見て)	年月日未詳	千吉	短冊	1
26	寿慶和歌短冊(寄浦恋 他)	年月日未詳	寿慶	短冊	10
27	今織和歌短冊(松上雪)	年月日未詳	今織	短冊	2
28	貞成和歌短冊(うちもねす)	年月日未詳	貞成	短冊	1
29	西庵和歌短冊(旅行友 他)	年月日未詳	西庵	短冊	27
30	頼之和歌短冊(恨恋 他)	年月日未詳	頼之	短冊	2

31 金桜和歌短冊 年月日未詳 金桜 短冊 1

三五・四五 漢詩

1 武藤士成見訪賦 癸巳八月七日 新川居士源宣 一紙 1

2 北洲漢詩短冊 甲午中秋月日未詳 北洲 短冊 1

3 剛堂漢詩短冊 年月日未詳 剛堂 短冊 1

三五・四六 書画・手跡

1 玉性院(茨木中)七夕手書 天保八年七月 玉性院(茨木中、茨木操姉) 横帳 1 5

2 茨木中手徳手本 天保二、九年、表紙「天保八年酉七月 七夕手書」 貼紙「寛性院様三女 玉性院様十三才の御筆」 天保八年十二月 玉性院(茨木中) 横帳 1 8

3 玉珠院御筆源氏等 嘉永六年九月吉日 玉珠院(茨木操室) 袋綴 1 12

4 茨木内匠十三才之書 表紙「源氏 国尽し 菊月」 貼紙「玉珠院様二十歳の御筆」 嘉永七年神無月二十五日 茨木内匠 一枚 1

5 茨木内匠書 年月日未詳 茨木内匠 一枚 1

6 茨木信書 明治十四年八月吉日 茨木信(茨木操娘) 袋綴 1 16

7 平八郎等画色紙 表紙「明治十四年巳八月吉日改 茨木信」 貼紙「大機院様(名操)二女信 十二歳の書」 平八郎 色紙 20

8 竹香画短冊 年月日未詳 竹香 短冊 1

番号	標 題	年 月 日	差出(作成)↓宛名	形態	点数	墨付
9	奈良武次揮毫短冊	年月日未詳	陸軍大将男爵奈良武次	短冊	1	
三五・四七 茶道						
1	明治八年千宗左金沢入りより 出立迄之記	明治四〇八年		袋綴	1	40
2	表紙「明治八年十月二十九日千宗左碌々齋金沢表江着十二月十八日当地出立」 入門祝儀金受納状 折封入	癸酉(明治六年)二月	不審庵宗左↓茨木操	折紙	1	
3	茶会記	明治七年〇九年		長帳	1	35
4	茨木操茶事相伝に付御届金等受 御届金二百匹・御扇子料金百匹 折封入	年未詳十一月	不審庵宗左↓中村柏軒・神谷小柴納書	切紙	1	
5	不審庵相伝書 ①箱手前相伝書 ②唐物点相伝書 折封入	年未詳十二月	不審庵宗左↓茨木操	折紙	2	
6	千家表流乱飴相伝中村柏軒ヨリ 聞書題箋	年月日未詳		題箋	1	
三五・四八 医薬						
1	虫亡葉袋	文久二年八月		袋	1	
2	歯うづく之治療法(灸)	年月日未詳		切紙	1	
3	五香湯包紙	年月日未詳	金沢区出羽五番丁村田一寿調合	包紙	1	

三五・四九 宗教

1 高岸寺寄進鐘銘書

延享四年九月十二日

続紙

1

施主玄通院殿柏了宗善居士・顕成院殿妙理日応大姉、延享四丁卯九月十二日、鑄師平井伯耆守伊永、後藤七兵衛
久清彫之

2 寛性院殿忌巴調

安政二年初冬二十四日

前瑞雲閑居皓玉棚松

切紙

4

封紙上書①「奉備高靈位 巴調 一章」②「尊靈前奉拝宣 巴調 二章 前瑞雲休隠格上」

明治九年十一月

前田齊泰序

袋綴

1

7

3 利常卿像祭祀覚写
表紙「秘書不許他見」

明治十八年七月

亀水(茨木操)

横帳

1

20

4 神道諸事留

その他 封紙・袋・タトウ
①寛永四年「御一行」折封、②「上 狂歌」折封、③二十一年三月十日 奉吟「折封、④「上」折封、⑤「丁巳 秋拵」封、⑥タトウ、⑦⑩封

解題

1、茨木文庫概要

茨木文庫は総点数五五五点からなる。うち十点は本紙のない封・包類であるので、これらを除くと実質五四五点となる。

史料は四つの大項目、三十の小項目に分類し、必要に応じ細項目を付したものである。時代的には大分類の1～3の項が江戸期を中心とするもので、一部明治期の史料も含まれるが、本目録の核心をなすものであろう。四の項目は茨木家における学芸関係史料であり、時代的には近代史料が大方を占めている。

史料の江戸期と明治期の分布については、明確に区分できない史料もあり、また明治初期の史料については江戸期と全く隔絶するものではなく、連続するものもあり（例えば版籍は明治二年迄、廃藩は明治四年）、改年号をもって時代区分はしていない。

史料には写ではあるが天正期の前田利長文書、知行宛行状では寛永期の利長・利常発給文書など、大分類の一・三に藩政初期のものが見られ、茨木家の歴史をも物語っている。

〈項目〉	〈点数〉
1 藩主・知行	115
11 進物礼状	17
12 御書頂戴礼状	7
13 藩主等書状	6
14 御一行書	44
15 知行地	4
16 知行拝領礼状	3
17 知行判物留	6
18 勤仕	28
2 茨木家	151
21 由緒	26
22 遺言書	6
23 家計	23
24 日記・小払帳	8
25 縁組願	4
26 婚儀	33
27 子女	19
28 交際	19
29 屋敷	13
3 家中	29
31 家政	5
32 知行	12
33 由緒一類附帳	10
34 宗門改	2
4 学芸	250
41 一般	9
42 俳諧	40
43 俳句短冊	62
44 和歌短冊	91
45 漢詩	3
46 書画・手跡	28
47 茶道	7
48 医薬	3
49 宗教	7
その他	10

2、茨木家系譜

茨木家は「諸士系譜」（金沢市立玉川図書館蔵）によると、初代を斉藤源助とし、源助の代より前田利家に仕えた。斉藤家の出自は、越前朝倉家に仕えた国侍とも伝えられ、源助の子助右衛門の代に姓を茨木と改め、以降茨木を姓としている。茨木文庫中の「先祖由緒并一類附帳」では、この助右衛門を茨木家初代とする。史料三五・一四―二、三に見える斉藤勘兵衛については、この助右衛門の事とされる（「金沢古蹟志」）。以下、茨木家の歴代を関係事項も含め表示する。

(歴代名)	(召出)	(知行高)	(役職)
1 助右衛門	利家代召出	二百石	
2 源五左衛門	慶長四年利常代召出	二千五百五十石	御見小将・御小将御番頭・御馬廻組頭・寺社奉行
3 伝右衛門	寛文七年綱紀代召出	二千五十石	御馬廻組・宮腰町奉行・御先弓足軽頭
4 源五左衛門	元禄十年綱紀代召出	二千五十石	御馬廻組・御普請奉行・御先筒足軽頭・御持筒足軽頭・大組頭・御馬廻組頭
5 覚左衛門	宝永元年綱紀代召出	二千五十石	御馬廻組・御大小将組・御大小将横目・安芸御前様
6 左大夫	寛延二年重潤代召出	二千五十石	附者頭・御持弓足軽頭・盜賊改方・魚津在住
7 源五左衛門	宝暦十二年 召出	二千二百石	御馬廻組頭御用番支配・御馬廻組
8 忠順			御馬廻・越中境奉行・御先弓頭・盜賊改奉行・御従頭・金沢町奉行・御馬廻頭

以上に「諸士系譜」「茨木家位牌」「茨木譜備考」などの記述を補足すると、

1 助右衛門	(諱)	(別称・備考)	(没年)	(法名)
		〔斉藤源助子〕	元和元年没	光泰院

2 源五左衛門	長好 <small>ナガヨシ</small>	左大夫・小刑部・刑部・右衛門、 隠居名 宗入〔吉田数馬二男〕	寛文十一年没	大勢院
3 伝右衛門	長重 <small>ナガシゲ</small>	伝右衛門	元禄十年没	青松院
4 源五左衛門	長基 <small>ナガモト</small>	左大夫・源五左衛門	元文五年没	慈雲院
5 覚左衛門	敬長 <small>ヨシナガ</small>	三之助・貞右衛門〔二代源五左衛門三男権丞の嫡子〕	寛延元年没	玄通院
6 左大夫	道啓 <small>ミチヒラ</small>	長富	宝暦十二年没	澄源院
7 源五左衛門	自道 <small>ヨリミチ</small>	鉄次郎・源五左衛門	文政四年没	寛量院
8 主殿	忠順	積翁	安政二年没	寛性院
9 源五左衛門	忠恕	操	明治四十四年没	大機院

二代源五左衛門の代に至り茨木家の知行は二千石台になるが、その内容については史料三五・一四―五―14を参照されたい。これは源五左衛門は吉田長蔵(数馬)の五男(由緒書では三男)であったが、茨木助右衛門の養子となったもので、三五・一四―5では吉田小刑部、同6では茨木小刑部名となっており、元和初年に茨木家に入ったものと推測される。

吉田長蔵家は尾張国岩塚の出身で、父孫兵衛代より尾張国荒子において前田家の家臣となった家で〔諸士系譜〕、「天正三年越前府中侍帳」には越前府中二十一入衆の一人として、「一、百五拾石 吉田長蔵」と記される。「茨木家由緒書」も「諸士系譜」も七・八代までの記述で終わっているが、九代以降は史料三五・一四―31以降の記述から、七代源五左衛門、八代主殿、九代源五左衛門と続く。

九代源五左衛門は明治になり「操」と改名している。操は明治三十二年時には尾山神社の社掌を勤めていた(三五・四四―14)。史料三五・二一―5明治十八年の「茨木家一類附」には、操の家族として、妻 仙石故内匠娘、長男 諸江忠良、次男 茨木清次郎、三男 茨木忠俊、長女 菊池武及妻、二女山岸吉妻 信、三女 文、四女石川弥右衛門養娘、弟 茨木忠顕、同 吉野五十八郎の家族と他に「おい・めい」の名が記されている。

この中で、清二郎は東大文科を卒業し、第四高校教授、文部省視学官・督学官、東京音楽学校長、浦和高校

長、松本高校長、東京女高師校長を歴任している。

3、家計

ここでは一例として延宝五年（一六七七）の予算書ともいうべき「勝手方諸色図帳」（三五・二三―一）が纏まっているので紹介する。

先項で家臣について見たが、この期の構成は給人三人・給米取三人・若党十二人・下々男十八人・女房十三人、計五十三人となっている。この五十三人の知行・給銀も大きな支出部分となる。

以下収支を見ていくと、【収入】は知行高二千五十石に対して八百九十八石四斗九升四合が上納口米となる。これが収入の全てである。次に【支出】の主な項目を以下に列記する（明細は省略）。

米払 家中知行・扶持・賄米・蔵敷米等（家中給銀は銀払） 二百三十八石六斗五升

菩提寺供米・医者・歳暮・五節句・米・味噌等 三十石 計二百六十八石六斗五升

残六百二十九石八斗四升四合 これを銀に替えると二十六貫三百六十六匁一分となる。

銀払 全部で二十七項目。額の大きなものについて項目を以下に示す。

五貫三百目 男女四十六人給銀并小々姓仕きせ代鼻紙料 二貫三百四十目余 図之外入用

二貫目 自分并せかれ衣装代 二貫目 年中肴代

一貫六百目 馬二匹飼料品々 一貫五百目 飯米之外母遣料

一貫二百目 年中入用之外貯銀 一貫二百目 年中酒代

一貫百五十三目余 御普請役銀余荷銀 一貫目 武具馬具刀脇刺修理代

等々で合計は予算額と同額の二十六貫三百六十六匁一分となる。

以上支出の中で家中分は、米払いのうち約二十七%、銀払いのうち約四十%（米に換算すると約百三十石弱）が家中への知行・給銀となる。米払い・銀払いを米に換算合計すると約三百七十石となり、茨木家の知行収入約八百九十八石の約四割が家臣団維持のための費用となる。

4、屋敷移動と茨木町

茨木家の屋敷所在を見ると、元禄六年（一六九三）～宝暦期（一七五一～一七五九）には「仙石町」とあり、文化期（一八〇四～一八一八）には「堅町」、文化四年（一八〇七）には「牛右衛門町」とある。「堅町」と「牛右衛門町」は同じ場所である。武家地は町名は無く、「堅町」「牛右衛門町」の記載はその辺りの意である。

移転の契機は宝暦の大火によつて、「仙石町」辺の屋敷が火除地として上ヶ地になつたためである。移転先は同じように上ヶ地となつた旧本多家下邸があつた「牛右衛門町」辺であつた。

宝暦の大火は宝暦九年（一七五九）四月十日、泉野寺町の寺院からの出火で城下の大半を焼失した。金沢城も含め焼失家屋は一万軒を超えた。このうち武家屋敷は四千五百五十軒が被害を受け、茨木家の屋敷も同様に焼失した。宝暦の大火による武家地の変化は茨木家の例に限らず大きなものであり、城下の構成にも影響を与えるものであつたと推測されるが、宝暦の大火による城下の変化についてはほとんど明らかにされていない。

茨木家の屋敷地と町名の関わりについて、『金沢古蹟志』には「茨木町 此の町は、藩士茨木氏の邸宅ありし故に名づく。茨木氏は、元祖源五左衛門以来堂形前葛巻氏の隣地に邸宅ありて、数代ここに居住の処、宝暦九年火災の後火除地と成る故、此の地辺の諸士に移転を命ぜられ、翌十年五月右替地として、本多遠江守下邸の地内にて上ヶ地を命ぜられ、坪数九百余歩を茨木左大夫に賜はり、六月十六日普請会所より打渡有之。これより茨木氏の邸地となり、代々居住の処、明治廃藩置県の後、其の地を売却して退去し、今は町名に其の名を称するのみとなれり。」とある。

茨木家の替え地の決定は、「替地渡方しらへ帳」（加越能文庫）によると、宝暦九年に奥村主水の上ヶ地（火除町辺）が提示されるが、茨木左大夫は「相望不申」とし、翌十年に至り本多遠江守の上ヶ地（牛右衛門町辺）九百歩の地を望みの地として受けている。茨木左大夫の知行二千五十石は屋敷地基準からすると七百五十歩であるとしているが、百五十歩多い九百歩の地を得た。

茨木家の屋敷が所在した周辺は明治になり、名残りとして「茨木町」となる。旧藩士屋敷の所在に因む町名はこの他にもあるが、それらの地域に所在した藩士屋敷はそれらのみではなく、それらの内のひとつが町名とし

て選ばれる経緯は不明である。

5、家中

二千石余の知行を有する茨木家における家臣の構成は、明治二年時(三五・二二―12)においては左のようになる。給人十人、足軽小頭三人、足軽四人、計十七人の家臣団構成である。

給人	山川十郎兵衛	九十石							
給人	森田平次	六十石							
給人	木村藤左衛門	五十石							
給人	坂井権平	六十石							
	山川金作	五人扶持	外二壺斗八升		(山川十郎兵衛せがれ)				
給人	上田作左衛門	四十石			(森田故大作二男)				
給人	南部三郎	八人扶持	外二壺斗八升						
給人	久江三郎	八人扶持	外二壺斗八升						
給人	下村彦四郎	六人扶持	外二壺斗八升						
給人	高柳茂	五人扶持	外二壺斗八升						
	上田耕作	三人扶持	外二壺斗八升		年中給金拾両	毎月菜代壺貫五百文(上田作左衛門せがれ)			
給人	大野兵左衛門	三人扶持	外二三斗六升		年中給米貳石	毎月菜代壺貫五百文	盆暮遣高貳拾貫文		
譜代足軽小頭	永嶋喜兵衛	貳人扶持	外二三斗六升		年中給米壺石五斗	毎月菜代壺貫三百文	盆暮拾五貫文		
同	山室清作	壺人半扶持	外二五斗七升		年中給米壺石五斗	毎月菜代壺貫三百文	盆暮拾五貫文		
同	中村市三郎	壺人半扶持	外右同断						
足軽	内島和平	壺人半扶持	外右同断						

同 永嶋喜三右衛門 壺人半扶持 外二式斗七升 毎月菜代壺貫三百文 盆暮拾五貫文(永嶋喜兵衛養子)

同 越村平兵衛 壺人半扶持 外右同断

同 宮野吉藏 壺人半扶持 外右同断

知行メ三百石 扶持米メ四十六人扶持 菜代拾貳貫百文 給金拾兩 盆暮百貳拾五貫文

となる。石高を合わせると知行米三百石十扶持米八十三石九斗五升(一人一日五合で算定)十年中給米五石(計の項に欠)〓三百八十八石九斗五升となる。他に給金十兩と菜代など百三十七貫三百文が家中への手当となつてゐる。茨木家の知行高を二千二百石とすると、実質収入を大雑把であるが半分の千百石程として、その半分程(五百石程)が茨木家に残ることになるのであろう。

以上が明治二年時の家臣構成であるが、寛文四年(一六六四)時(史料三五・三四―一)について見ると、士・足輕二十人、小者二十五人を数えることが出来、更に女中二十二人を加えると六十七人の家臣・使用人を抱えている様子が見られる。明治二年時のものは士・足輕十七人の数字のみであるので、この部分の数字では多少の変化(減少)が見られ、茨木家においては士・足輕は二十人前後を抱えていたといえる。

寛文四年時の内容は左のとおりである。

○松田六右衛門・中川作右衛門・田尻七右衛門・星石与兵衛・山川三平・竹村九十郎・山岡甚兵衛・桜井四兵衛・園部勘左衛門・杉野十兵衛・田中孫左衛門・小川加兵衛・大河原兵左衛門・高桑半右衛門・森加左衛門・松村弥兵衛・岡部伊右衛門・山田左助・安達徳左衛門・杉出太右衛門

メ二十
○山三郎・彦右衛門・覚藏・市左衛門・彦兵衛・忠兵衛・覚兵衛・弥之助・吉右衛門・新兵衛・久助・久内・三助・六助・与助・仁兵衛・茂助・与作・五助・三吉・市右衛門・八助・長助・太兵衛・新五郎

メ二十五
○かる・みつの・ち・うは・あか・さん・さく・かち・せき・らん・さな・きり・まき・さこ・まん・いわ・たつ・まつ・わか水・つほみ・みとり・にほい

メ二十二
また史料三五・三三に天保十三年から元治元年にかけての家臣の由緒帳があるが、これは茨木家仕官時に

提出されたものである。全部で十件になるが、足軽クラスの召し抱えが藩末期まで行われており、足軽クラスにおいては移動が多かったことを推測させる。

6、俳諧

茨木家文書中の特徴のひとつとして俳諧史料があげられよう。茨木家の俳諧史料の中心は近代以降のもので、作成・収集は茨木操の代に行われたものである。

短冊などには金沢を中心とした多くの俳人のものが見られると共に、茨木家の人々の作品が多く見られ、近代士族家の俳諧史料となる。

家の俳諧という中で、結社と同人に関する史料として「蕉風明倫教会」史料がある。この組織については、村山故郷著『明治俳壇史』によると、明治新政府は社会教化の振起のため教部省に大教院を置いた。社会教化の実践は教導職によって進められ、俳諧の宗匠達も教導職に任命された。教導職となつた俳諧の宗匠達が職務遂行のために着手したのは結社の設立であつた。

これにより明治七年四月に「俳諧教林盟社」、同年八月に「俳諧明倫講社」の二大結社が設立された。「蕉風明倫教会」は「俳諧明倫講社」が改称されたものである。金沢にこの分院となる「蕉風明倫教会金沢分院」が設立されるのは明治十九年頃のことと推測される。蕉風の名の通り設立時の「明倫講社規約」の第一条は「祖翁ノ言行ヲ旨トシ、物理ヲ明カシ、俗談ヲ正シウシ、和ヲ専務トス可事」であつた。蕉風俳諧の基調を継承する事を目的とした結社である。茨木家文書中に左の交名書があり、茨木操も教導の位置にあつたことが知れると共に、当時の金沢における宗匠名と茨木操との俳諧上の交流者を知ることができる。ここに記された人々の短冊なども茨木家俳諧史料の中に大きな位置を占めている。また俳号が誰のものか判る史料でもあり、交名全文を以下に掲載しておく。

少講義	明治十九年	蕉風明倫教会金沢分院交名	嘉永三年十一月生	俳号小春庵桃芳
訓導	金沢区上藪ノ内平民	野代谷徳次郎	嘉永三年十一月生	俳号百々庵北塵
同	同区百姓町平民	佐々一峰	嘉永六年八月生	同雀悦庵竹歌
同	同区茨木丁士族	内山善成	弘化元年八月生	同春星庵来三
同	同区长町川岸士族	清水祐世	天保十一年五月生	同尚友庵龜水
同	同区水溜町士族	茨木操	安政元年三月生	同五月庵翠峰
同	同区大工町平民	木村弟四郎		
〔貼紙消〕	同区石浦町平民	水草庵習桃		
〔權訓導〕	同区裏金屋丁平民	松田鍵太郎	文久三年五月生	俳号雛之屋桃永
〔貼紙消〕	同区横安江丁坂井保治方同居士族	多賀新次郎	文久元年五月生	俳号湖南居南溪
〔試補〕	富山県魚津荒町士族	山崎義孝		
同	同区	宮森		
同	同区	鈴木元太郎	安政五年七月生	同柳風
試補	同区本多町士族	吉倉吉太郎	慶応三年四月生	同牧童庵桃公
同	同区土取場永町同居	岡田重栄	文久三年三月生	同芦之本桃月
同	同区长町三番丁合併地士族	越守伊三郎	元治元年三月生	同い守庵桃逸
同	同区下安藤町平民	神原元太郎	慶応三年十月生	同座古庵鳳洲
同	同区森町一番丁士族			
同	(当時輪島鳳至町字下町寄留)			
訓導	砺波郡城端町平民	荒木文平		同好李庵鬼文
同	同郡胡麻嶋村平民	大谷元規	嘉永六年九月生	同青柳庵桃郷
權訓導	金沢区下百々女木町士族	藤田忠成		同榎之本茜舎
同	(当時射水郡高岡)			
同	同区観音町士族	寺井利道		同更隣
同	同区	山口義章		同青瓢
同	石川郡松任平民	金地吉郎平		同鶉波
試補	砺波郡津沢町村士族	窪田茂正	嘉永六年三月生	同桂花庵笹風
權訓導	同郡経田村平民	大谷八三郎		同田司庵柳芳

あとがき

近世史料館に新たに武家文書の一典型ともなる史料群が誕生することになりました。

茨木家は藩士中では、八家・人持に次ぐ平土の家であり、茨木家は平土の中でも最上位の知行を有する家であります。当館には茨木文庫の他にも、点数の多寡はありますがいくつかの武家文書を所蔵しています。その多くは知行宛行状や由緒書などからの構成であり、武家文書の残存形態がパターン化されており、各家の家内状況を伝えてくれるような史料は少ないのが一般的であります。

そのような中で、茨木文庫においては、知行宛行状についても史料を再構成すると、宛行状が発給されるまでの経緯を復原することが出来るような残存形態をもっています。

さらには家の家格を表明する史料のみでなく、年中行事の諸例や家中の格式・仕置の定、家臣構成や家中の由緒書などを含み、藩士家中の具体的な構造が知れる希な史料群であるといえます。また家の家計に関する史料からは二千石クラスの家臣の財政・経営を知ることが出来る貴重な史料群となることと思われれます。

解題ではこれらの項目について全てについて触れることはできませんでしたが、公開・利用されることにより加賀藩士家に対する研究の一助となるものと確信されます。多岐にわたる活用がなされることを期待いたします。

最後に、本史料を御寄贈いただいた茨木家の御親族各位に厚く御礼を申し上げます、あとがきいたします。

平成二十二年三月

(文責 宇佐美)

茨木文庫目録

平成二十二年三月

編集・発行

金沢市立玉川図書館
近世史料館

〒920-0863 金沢市玉川町二番二〇号
電話〇七六(二二一)四七五〇
FAX〇七六(二二二)六九三八

印刷所

田中昭文堂印刷株式会社
電話〇七六(二六九)七七八八
FAX〇七六(二六九)七三一